

茨城県東海村農業委員会

【農業委員会の体制】（平成28年4月1日移行）

- 新体制：農業委員14人、農地利用最適化推進委員6人、事務局職員4人
- 旧体制：農業委員17人、事務局職員3人

1 地区の特徴・状況、課題

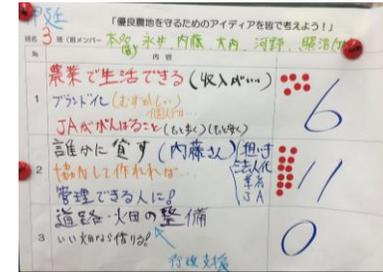
- 茨城県の県庁所在地である水戸市の北東へおよそ 15kmにあり、太平洋に面している。低地は水田(285ha)、台地は畑地(255ha)として活用し、サツマイモ等の栽培が盛んである。農業者の高齢化により、耕地の利用率が低下している。

2 活動の成果

- 規模拡大を希望していた認定農業者を中心に農地集積を達成した。
(集積率:平成26~28年度:8.9ha→平成29~30年度:約55ha)

3 課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

- 平成28年6月から8月にかけて、**村内14集落でワークショップ形式による集落座談会を開催**。主催した農業委員会と村の農業政策課だけではなく、JAなどの農業関係者や農業関係者以外の人も参加した。
- **座談会は1集落当たり3回実施**。i)現況の把握・情報の共有、ii)5・10年後の理想を語る・決める、iii)5・10年後の理想への到達方法を語る・決める—をそれぞれの会で話し合い、農業を通した「まちづくり」という観点で話し合いを進めた。
- 座談会を行うに当たっては農業委員と農地利用最適化推進委員が事務局と一緒に自ら声掛けをした。また、参加者の満足度を高めるような雰囲気づくりを徹底した。参加者アンケートによると、約9割がワークショップ方式を支持している。
- ワorkshop方式による座談会が功を奏し、農地中間管理機構への集積面積は、**平成29~30年度には約55haと平成26~28年度の約8.9haから5倍近くの集積を達成した**。特に、規模拡大に伸び悩んでいた北海道出身のネギを中心に生産する40代後半の認定農業者への集積が実現した。



茨城県東海村農業委員会

従来型座談会－遊休農地を減らすには

- ① 行政vs住民
- ② 課題は見つかるが決定事項が実行されない
- ③ 声の大きい人の意見が通る←多数決(一人一票)
- ④ 参加者満足度低い、継続しない
- ⑤ 参加者は男性ばかり、時間にルーズ

東海村の座談会進行表

○○区農業集落座談会進行表(例)		
期 日	平成○○年○○月○○日(○)	
会 場	○○区自治会集会所	
ファシリテーター(F)	農業委員会事務局長	
時 刻	持ち時間	内 容
6:30	10	あいさつ(転作実践委員会委員長・建設農政部長又は農政課長)紹介(JAセンター長 等) ・ 農業委員、最適化推進委員の紹介も含む
6:40	2	趣旨の説明(F)
6:42	8	自己紹介(1分間/人 : 最近の出来事で嬉しかったことも入れる)
6:50	5	アイスブレイク:話し合いのきっかけづくり (班対抗ゲーム:例 村内の小学校の児童数の多い順に並べなさい)
6:55	2	ワークショップの3つルール(F) ・自分ばかり話しません ・頭から否定しません ・楽しい雰囲気大切にします
6:57	3	テーマの説明(F) 「優良農地を守るためのアイデアを皆で考えよう！」 ・ 簡単に村内の現況紹介 ・ ポイント 他
7:00	5	書き出し(個人で考える) ※ポストイットの書き方を説明する ※これについて考えられる意見を出来るだけ多く書いてください。

膝詰めで協議－注目・机隙間
無し



協議結果をプレゼン



東海村方式－優良農地を守ろう

- ① 行政・住民全員参加
- ② 課題明確化、合意形成型なので決定事項が実行される
- ③ 参加者全員納得←一人三票
- ④ 参加者満足度高い、継続する
- ⑤ 参加者は老若男女、時間厳守

7:05	25	グループ共有(25分) ※共有の仕方の説明もする
7:30	20	グループ絞り込み(20分) ※グループで3つの意見に絞る ※絞り込みも協議する
7:50	20	グループ発表(2分～3分/班、全て3分以内で終了:バルで合図) ※なぜ、この3つに絞ったのかの事由説明を受ける
8:10	5	投票及び結果発表 ※全体で優先順位を決める ※自分の班以外に投票(3票/人)する
8:15	10	講評(農政課長・JA等)
8:25	4	参加者アンケート
8:29	1	閉会の挨拶(転作実践委員会委員長)
8:30		解散

プレゼン結果をもとに全員で一人
三票投票



投票結果

